



Only One Made「Mr.Aluman」取扱説明書(全種共通)

produce by Shindo Co.,Ltd

お買い上げいただいたお客様へ

この度は Only One Made「Mr.Aluman」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本製品は、お客様のご要望に合わせ 1mm 単位のオーダーメイドでお作りした、お客様のためだけの収納具です。

一つ一つの製品に想いを込めて丁寧にお作りしております。

お客様の快適な生活にお役立ていただけると幸いです。

この取扱説明書には、お客様が安全に末永く製品をお使いいただくための注意事項が記されています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

なお、お読みになったあとは大切に保管していただき不具合が生じたときにお役立てください。

〈目次〉

・表紙	1
・安全にお使いいただくための注意	2,3
・スタンダードシェルフ組立方法	4
・シングルハンガー組立方法	5
・ダブルハンガー組立方法	6
・フレームハンガー組立方法	7
・ワードローブ組立方法	8,9
・フレームシェルフ組立方法	10
・各オリジナルパーツについて	11,12
・転倒防止金具・フレーム補強金具取付け方法	13
・キャスター・アジャスターについて	14
・末永くお使いいただくために	14
・耐荷重量について	15
・お手入れ・保管方法	15
・トラブルと対処 及び よくあるご質問	16
・品質表示	16
・お問合せ	16

安全にお使いいただくために（警告・注意）

■絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人への危害や財産への被害を未然に防止するためにいろいろな表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



警告

※警告を無視して発生した被害については一切の責任を負いかねます。



飛び乗り禁止

製品に飛び乗ったり、ぶら下がったり、足をかけたりしないでください。
製品の転倒や破損の原因となり大ケガをまねく恐れがあります。



不安定な場所で
使用しない

製品を使用する際は滑りやすい場所や不安定な場所はさけ、製品が安定した状態であることを確認してからお使いください。
土面や砂利、砂地面、傾斜のある坂面、凹凸の著しい地面等でのご使用はさけてください。
製品が転倒し大ケガをまねく恐れがあります。



火気厳禁

製品を火気の近くで使用しないでください。
金属部が熱くなり火傷の原因となったり、樹脂部の発火による火災の恐れがあります。
また、製品の破損や変形、変色の原因となります。



コードを踏まない

製品の脚が電気コードを踏んだ状態で使用しないでください。
火災をまねく恐れがあります。



注意

※注意を無視して発生した被害については一切の責任を負いかねます。



上に乗らない

耐荷重量内であっても、製品の上に乗る、座るなど本来の目的以外での使用（椅子・ベッドとしての使用）をしないでください。
製品の破損や予期せぬケガをまねく恐れがあります。



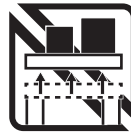
耐荷重量以上の
負荷をかけない

耐荷重量を超える負荷は絶対にかけないでください。
製品の破損や変形による収納物の落下などによるケガの恐れがあります。



分解・改造禁止

絶対に製品を分解したり、改造したりしないでください。
また、他社で製造されている別製品と合体させたり、パーツを組み合わせてのご使用はお止めください。
予期せぬケガをまねく恐れがあります。



物を載せたまま
各パーツを外さない

棚板やフレームの高さを変えるなど、各パーツを取り外す場合は、必ずすべての荷物を取り除いてから行ってください。
荷物を載せたまま取り外しを行うと、荷物が落下し、ケガをまねく恐れがあります。



自分で修理しない

製品が破損した場合は自分で製品の修理を行わずにご使用をお止めください。



ヒビ割れ注意

使用前、製品にヒビや割れなどの異常がないことを確認してください。
製品に破損等、異常がある場合は使用しないでください。
予期せぬケガをまねく恐れがあります。



注意

※注意を無視して発生した被害については一切の責任を負いかねます。



熱い物を置かない

アルミ材及び樹脂の上に熱いヤカンやポットを置かないでください。
アルミは熱伝導率が非常に高いため、すぐに熱くなり、火傷の原因となる恐れがあります。
また、製品の変色や劣化の原因にもなります。



二つ以上の製品の間に板を渡したりして使用しないでください。
予期せぬケガをまねく恐れがあります。



穴に指を入れない

支柱の取付け穴に指や物を入れないでください。
抜けなくなったり、ケガをまねく恐れがあります。



フレームの一点に集中して衣類を掛けたり、棚板に偏って収納物を載せたりしないでください。
製品が破損し収納物が落下することで予期せぬケガをまねく恐れがあります。

設置の際のお願い



直射日光のあたる場所で使用を続けると、製品が変色する恐れがあります。



製品の耐冷温度は -20℃までとなっております。
大型の冷凍庫内でご使用する場合はご注意ください。



水中や、雨ざらしの状態での使用はおやめください。
製品の急速な劣化を招く恐れがあります。



浴室・水回りなど、常に湿気や水分がある場所での使用はおやめください。
ネジなどの急速な劣化を招く恐れがあります。



設置する床が本体質量とそれぞれの耐荷重の合計重量に十分耐えられるか必ず確認してください。
床ぬけの恐れがあります。

組立前の注意



くちにいけない

小さなお子様がいるところでは組立作業を行わないでください。
ネジ等の小さな部品を誤飲する恐れがあります。



周囲の人や物に部品をぶつけないよう、広い場所で組立を行ってください。



樹脂パーツを金属製のハンマーで直接叩くとキズがついたり破損する恐れがあります。
ゴムハンマーもしくはプラスチックハンマーをご使用ください。また、付属のクッションマットをご使用ください。



高い位置での取付け作業に踏み台を利用する際は、足を踏み外して転倒しないよう十分に注意してください。



組立作業中は取付け穴の縁やハンマーなどによってケガをする危険性があります。
安全に作業を行うために保護手袋の着用を推奨します。

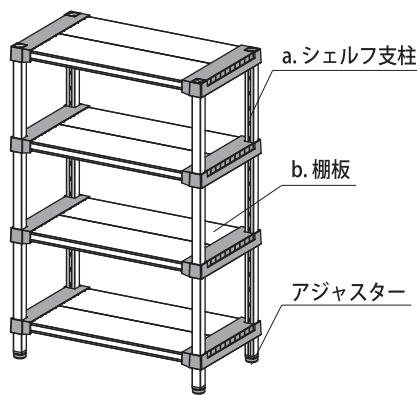


棚板の幅が 1m を超えるものは 2人以上で組立を行うことを推奨します。

「スタンダードシェルフ」の組立方法 ※必要な道具…プラスチックハンマー（ケガ防止の為、手袋の着用を）
もしくはゴムハンマー 保護手袋（ケガ防止の為、手袋の着用を）
※ケガ防止の為、手袋の着用を

〈製品完成図 及び 部品名称〉

※下図は「奥行 360・棚板 4 枚・アジャスター」タイプの例です。



〈部品明細〉 ※製品のサイズ・棚板の枚数はお客様のご注文内容によって異なります。

- a. シェルフ支柱 ×4 本
b. 棚板
c. アタッチメントブッシュ A・B (※) …棚板 1 枚につき 4 セット
- アジャスター仕様
キャスター仕様
- ※アタッチメントブッシュの表面には、棚板を嵌め込みやすくするためにシリコングリスが塗布されています。手に付着することがありますが、身体に害はありません。

〈組立目安時間〉

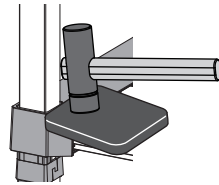
40 ~ 60 分

(奥行 360・棚板 4 枚のシェルフを大人 1 人で組み立てる場合)

※幅 1m を超えるものは大人 2 人以上での組立をおすすめします。

「アルマット」について

製品のキズ防止及び打音軽減の目的で付属したクッションマットです。部材をハンマーで叩く際に、必要に応じてご活用ください。



〈組立手順〉

- 1 棚板を取り付ける高さを決めます。
棚板を取り付けたい高さを決め、各シェルフ支柱にテープ等で目印をつけておきます。

- 2 棚板を一番下の取付け位置から順に取り付けます。

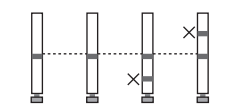
① アタッチメントブッシュを 1 で決めた位置に、支柱を挟み込むようにして、4ヶ所取り付けます。

② 棚板をシェルフ支柱の上部から通します。

※幅 1m 以上の棚板は、ケガ防止の為 2 人以上で作業することをおすすめします。

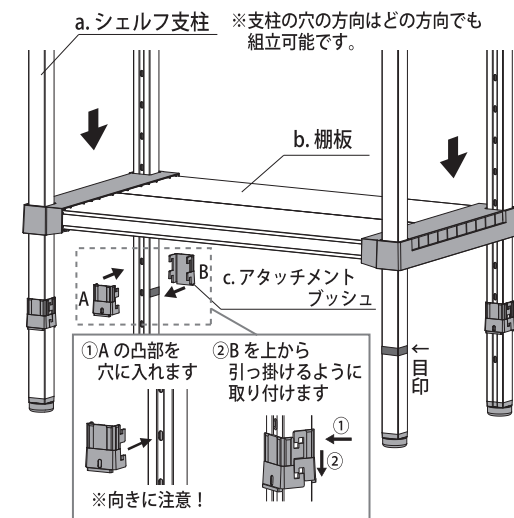
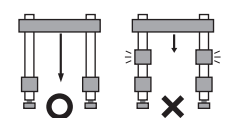
Point

取付け位置はすべての支柱で同じ高さにそろえる



Point

アタッチメントブッシュは一番下になる棚板の分だけ取り付ける



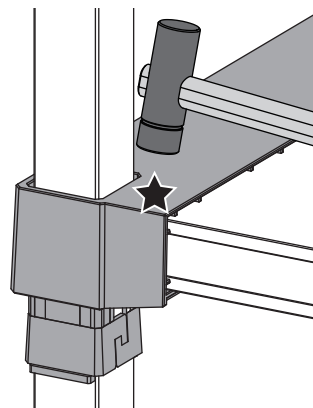
- 3 棚板の★で示した箇所をプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて棚板をアタッチメントブッシュに嵌め込みます。

棚板の 4 角を最後まで嵌め込みます。4 角の嵌り具合が均等になるよう、順番に少しずつ叩いてください。

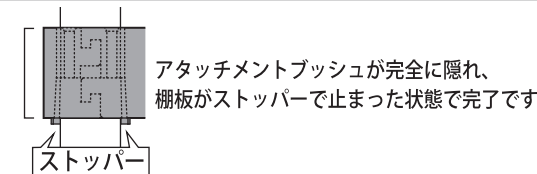
1ヶ所のみを集中して叩かないでください。棚板の破損の恐れがあります。

- 4 残りの棚板も 2 3 と同様の手順で取り付け完成です。

下の段の棚板から順番に、1 枚ずつ取り付けてください。



★で示した箇所以外は絶対に叩かないでください。部材が破損する恐れがあります。



注意
ストッパーで棚板が止まったら、それ以上叩かないでください。ストッパーが破損する恐れがあります。

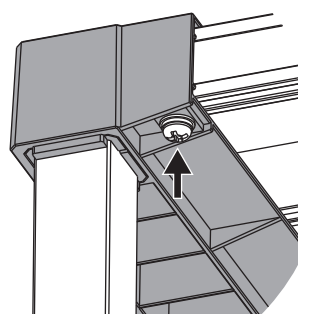
〈棚板の取外し方〉

① 右図に示したネジ頭を、下からプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて棚板を取り外します。

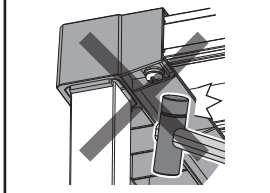
※4ヶ所順番に均等に少しずつ叩いて、棚板を徐々に外していきます。

1ヶ所のみを集中して叩かないでください。棚板の破損の恐れがあります。

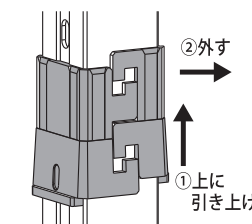
② アタッチメントブッシュを左右に引っ張るようにして支柱から外します。



注意
ネジ頭以外の箇所は絶対に叩かないでください。部材が破損する恐れがあります。



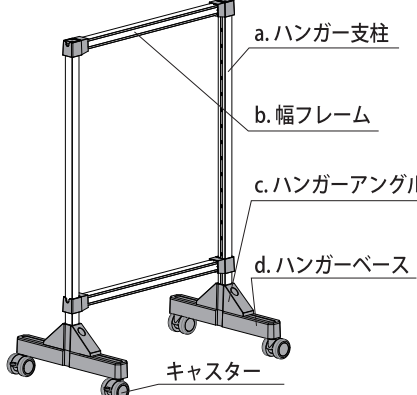
アタッチメントブッシュ B を上にずらしてから取り外します。



「シングルハンガー」の組立方法 ※必要な道具…プラスチックハンマー（ケガ防止の為、手袋の着用を）
もしくはゴムハンマー プラスドライバー 保護手袋（ケガ防止の為、手袋の着用を）
※ケガ防止の為、手袋の着用を

〈製品完成図 及び 部品名称〉

※下図は「幅フレーム 2 本・キャスター」タイプの例です。



〈部品明細〉 ※製品のサイズ・フレームの本数はお客様のご注文内容によって異なります。

- a. ハンガー支柱 ×2 本
b. 幅フレーム
c. ハンガーアングル ×2 個
d. ハンガーベース ×2 個
e. ハンガー支柱取付けネジ ×4 個
f. 六角ナット ×4 個
g. アタッチメントブッシュ A・B (※) …フレーム 1 本につき 2 セット + ハンガー支柱用 2 セット
- キャスター仕様
アジャスター仕様
- ※アタッチメントブッシュの表面には、フレームを嵌め込みやすくするためにシリコングリスが塗布されています。手に付着することがありますが、身体に害はありません。

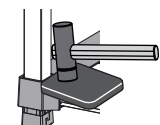
〈組立目安時間〉 5 ~ 20 分

(幅フレーム 2 本のハンガーを大人 1 人で組み立てる場合)

※幅 1m を超えるものは大人 2 人以上での組立をおすすめします。

「アルマット」について

製品のキズ防止及び打音軽減の目的で付属したクッションマットです。部材をハンマーで叩く際に、必要に応じてご活用ください。



〈組立手順〉

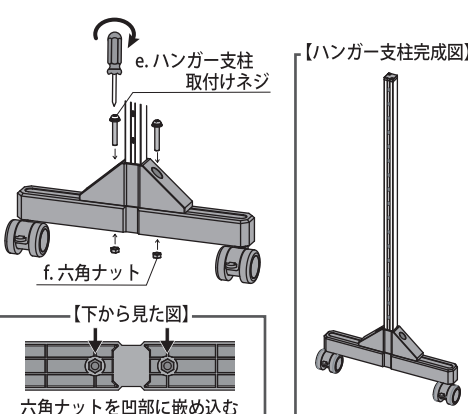
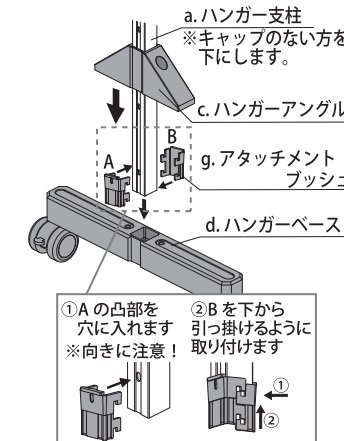
- 1 ハンガー支柱を組み立てます。

① ハンガー支柱の最下部にアタッチメントブッシュを取り付けます。
② ハンガー支柱の下部をハンガーベースに差し込みます。
③ ハンガーアングルをハンガー支柱の上部から通します。

- 2 1 をハンガー支柱取付けネジで 2ヶ所固定します。

① ハンガーアングルの穴にハンガー支柱取付けネジを通します。
② ハンガーベース下部の凹部に六角ナットを嵌め込みます。
③ ハンガー支柱取付けネジをプラスドライバーで固定します。

- 3 1 2 と同様の手順で、もう一方の支柱を組み立てます。



- 4 フレームを取り付ける高さを決めます。

フレームを取り付けたい高さを決め、各ハンガー支柱にテープ等で目印をつけておきます。

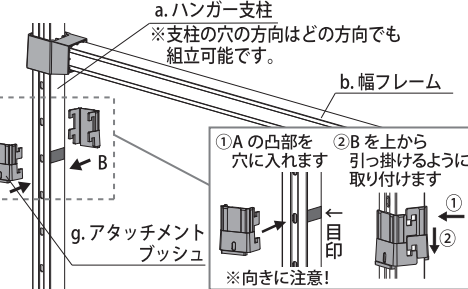
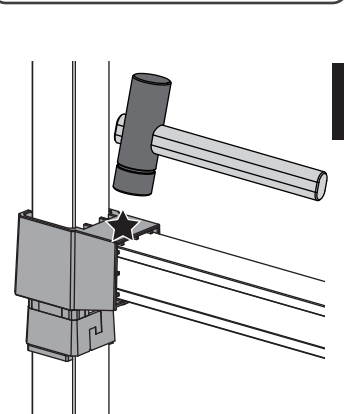
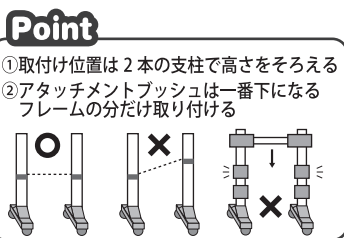
- 5 フレームを一番下の取付け位置から順に取り付けます。

① アタッチメントブッシュを 4 で決めた位置に、支柱を挟み込むようにして、2ヶ所取り付けます。
② フレームをハンガー支柱の上部から通します。幅 1m 以上のフレームは、ケガ防止の為 2 人以上で作業することをおすすめします。

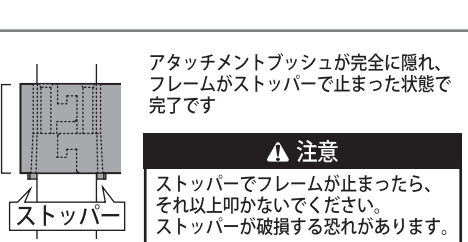
- 6 フレームの★で示した箇所をプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いてフレームをアタッチメントブッシュに嵌め込みます。

フレームの両端を最後まで嵌め込みます。両端の嵌り具合が均等になるよう、交互に少しずつ叩いてください。
片側のみを集中して叩かないでください。フレームの破損の恐れがあります。

- 7 残りのフレームも 5 6 と同様の手順で取り付け完成です。
下の位置のフレームから順番に、1 本ずつ取り付けてください。



★で示した箇所以外は絶対に叩かないでください。部材が破損する恐れがあります。



注意
ストッパーでフレームが止まったら、それ以上叩かないでください。ストッパーが破損する恐れがあります。

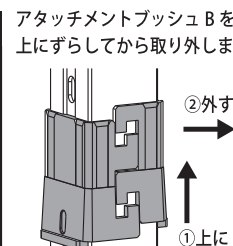
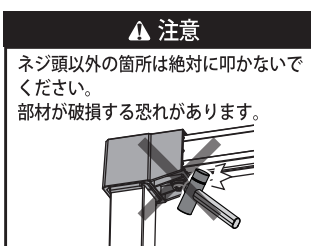
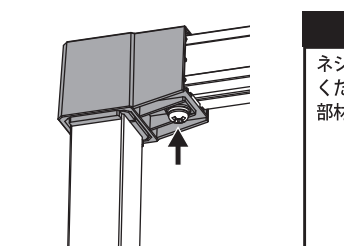
〈フレームの取外し方〉

① 右図に示したネジ頭を、下からプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて、フレームを取り外します。

※2ヶ所を交互に均等に少しずつ叩いて、フレームを徐々に外していきます。

片側のみを集中して叩かないでください。フレームの破損の恐れがあります。

② アタッチメントブッシュを左右に引っ張るようにして支柱から外します。

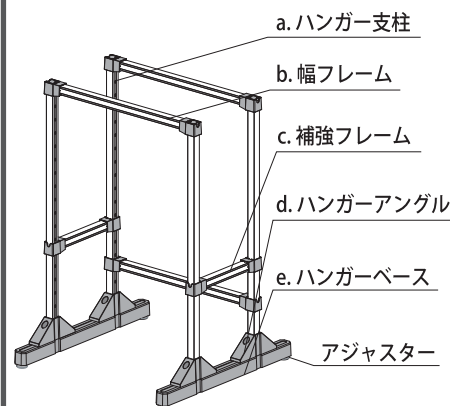


「ダブルハンガー」の組立方法

※必要な道具… プラスチックハンマー
もしくはゴムハンマー プラスドライバー 保護手袋 (ケガ防止の為、手袋の着用を
おすすめします。)

〈製品完成図 及び 部品名称〉

※下図は「幅フレーム3本・補強フレーム2本・アジャスター」タイプの例です。



〈部品明細〉 ※製品のサイズ・フレームの本数はお客様のご注文内容によって異なります。

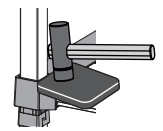
- a. ハンガー支柱 ×4本 (前支柱・後支柱 各2本ずつ) b. 幅フレーム c. 補強フレーム h. アタッチメントブッシュA・B (※) …フレーム1本につき2セット +ハンガー支柱用4セット
- d. ハンガーアングル×4個 e. ハンガーベース ×2個 f. ハンガー支柱取付けネジ ×8個
- g. 六角ナット ×8個
- ※アタッチメントブッシュの表面には、フレームを嵌め込みやすくするためにシリコングリスが塗布されています。手に付着することがありますが、身体に害はありません。

〈組立目安時間〉 20 ~ 30 分

(幅フレーム3本・補強フレーム2本のハンガーを大人1人で組み立てる場合)
※幅1mを超えるものは大人2人以上での組立をおすすめします。

「アルマット」について

製品のキズ防止及び打音軽減の目的で付属したクッションマットです。部材をハンマーで叩く際に、必要に応じてご活用ください。



〈組立手順〉

1 ハンガー支柱を組み立てます。

- ① ハンガー支柱の最下部にアタッチメントブッシュを取り付けます。
- ② ハンガー支柱の下部をハンガーベースに差し込みます。
- ③ ハンガーアングルをハンガー支柱の上部から通します。

2 ①をハンガー支柱取付けネジで2ヶ所固定します。

- ① ハンガーアングルの穴にハンガー支柱取付けネジを通します。
- ② ハンガーベース下部の凹部に六角ナットを嵌め込みます。
- ③ ハンガー支柱取付けネジをプラスドライバーで固定します。

3 ①②と同様の手順で、残りの支柱を組み立てます。

4 フレームを取り付ける高さを決めます。

各ハンガー支柱のフレームを取り付けたい高さを決め、テープ等で目印をつけておきます。

5 フレームを一番下の取付け位置から順に取り付けます。

- ① アタッチメントブッシュを④で決めた位置に、支柱を挟み込むようにして、2ヶ所取り付けます。
- ② フレームをハンガー支柱の上部から通します。
- ※ 幅1m以上のフレームは、ケガ防止の為2人以上で作業することをおすすめします。

6 フレームの★で示した箇所をプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いてフレームをアタッチメントブッシュに嵌め込みます。

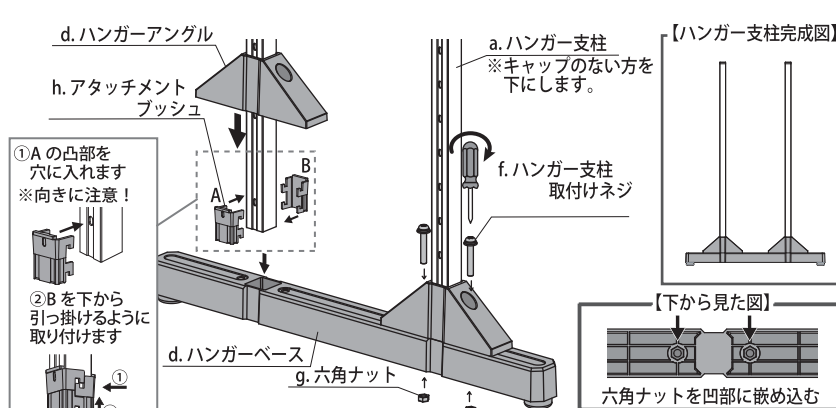
フレームの両端を最後まで嵌め込みます。両端の嵌り具合が均等になるよう、交互に少しずつ叩いてください。片側のみを集中して叩かないでください。フレームの破損の恐れがあります。

7 残りのフレームも⑤⑥と同様の手順で取り付けで完成です。

下の位置のフレームから順番に、1本ずつ取り付けてください。

〈フレームの取外し方〉

- ① 右図に示したネジ頭を、下からプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて、フレームを取り外します。
- ※ 2ヶ所を交互に均等に少しずつ叩いて、フレームを徐々に外していきます。
- 片側のみを集中して叩かないでください。フレームの破損の恐れがあります。
- ② アタッチメントブッシュを左右に引っ張るようにして支柱から外します。



Point

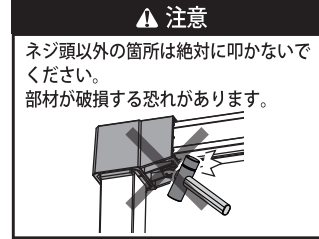
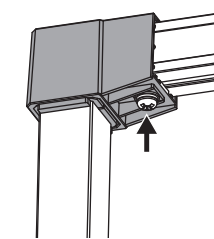
- ①取付け位置は2本の支柱で高さをそろえる
- ②アタッチメントブッシュは一番下になるフレームの分だけ取り付ける

幅フレームと奥行フレームは、同時に同じ高さに取り付けることができません。

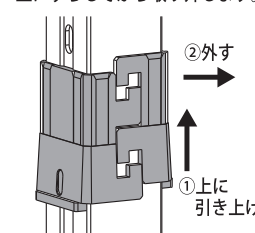
★で示した箇所以外は絶対に叩かないでください。部材が破損する恐れがあります。

アタッチメントブッシュが完全に隠れ、フレームがストッパーで止まった状態で完了です

ストッパーでフレームが止まったら、それ以上叩かないでください。ストッパーが破損する恐れがあります。



アタッチメントブッシュBを上にはずしてから取り外します。

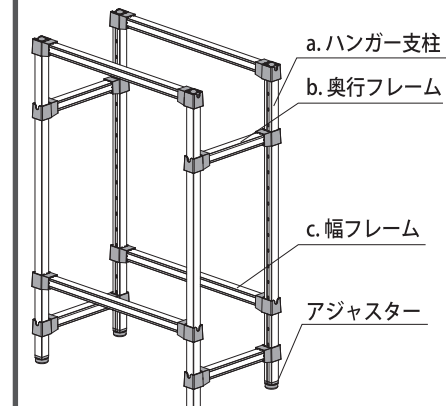


「フレームハンガー」の組立方法

※必要な道具… プラスチックハンマー
もしくはゴムハンマー 保護手袋 (ケガ防止の為、手袋の着用を
おすすめします。)

〈製品完成図 及び 部品名称〉

※下図は「幅フレーム4本・奥行フレーム4本・アジャスター」タイプの例です。



〈部品明細〉 ※製品のサイズ・フレームの本数はお客様のご注文内容によって異なります。

- a. ハンガー支柱 ×4本 b. 奥行フレーム c. 幅フレーム d. アタッチメントブッシュA・B (※) …フレーム1本につき2セット
- アジャスター仕様
- キャスト仕様
- ※アタッチメントブッシュの表面には、フレームを嵌め込みやすくするためにシリコングリスが塗布されています。手に付着することがありますが、身体に害はありません。

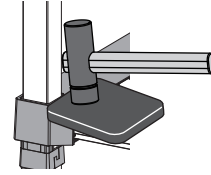
〈組立目安時間〉

30 ~ 40 分

(幅フレーム4本・奥行フレーム4本のハンガーを大人1人で組み立てる場合)
※幅1mを超えるものは大人2人以上での組立をおすすめします。

「アルマット」について

製品のキズ防止及び打音軽減の目的で付属したクッションマットです。部材をハンマーで叩く際に、必要に応じてご活用ください。



〈組立手順〉

1 フレームを取り付ける高さを決めます。

フレームを取り付けたい高さを決め、各ハンガー支柱にテープ等で目印をつけておきます。

2 フレームを一番下の取付け位置から順に取り付けます。

- ① アタッチメントブッシュを①で決めた位置に、支柱を挟み込むようにして、2ヶ所取り付けます。
- ② フレームをハンガー支柱の上部から通します。
- ※ 幅1m以上のフレームは、ケガ防止の為2人以上で作業することをおすすめします。

3 フレームの★で示した箇所をプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いてアタッチメントブッシュに嵌め込みます。

フレームの両端を最後まで嵌め込みます。両端の嵌り具合が均等になるよう、交互に少しずつ叩いてください。

片側のみを集中して叩かないでください。フレームの破損の恐れがあります。

4 残りのフレームも②③と同様の手順で取り付けで完成です。

下の位置のフレームから順番に、1本ずつ取り付けてください。

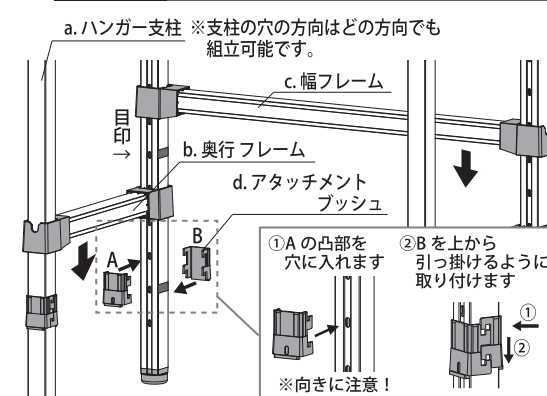
Point

取付け位置は2本の支柱で同じ高さにそろえる

Point

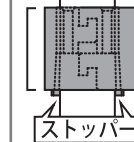
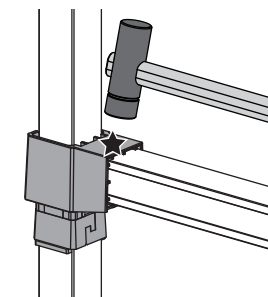
アタッチメントブッシュは一番下になるフレームの分だけ取り付ける

幅フレームと奥行フレームは、同時に同じ高さに取り付けることができません。



注意

★で示した箇所以外は絶対に叩かないでください。部材が破損する恐れがあります。

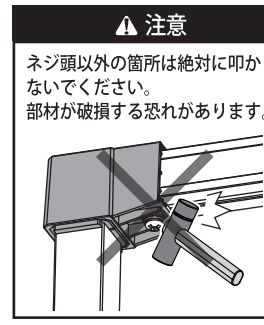
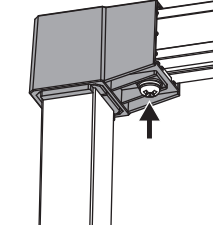


アタッチメントブッシュが完全に隠れ、フレームがストッパーで止まった状態で完了です

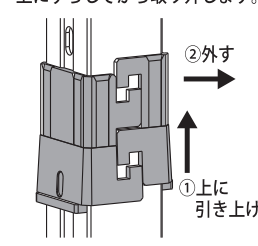
ストッパーでフレームが止まったら、それ以上叩かないでください。ストッパーが破損する恐れがあります。

〈フレームの取外し方〉

- ① 右図に示したネジ頭を、下からプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて、フレームを取り外します。
- ※ 2ヶ所を交互に均等に少しずつ叩いて、フレームを徐々に外していきます。
- 片側のみを集中して叩かないでください。フレームの破損の恐れがあります。
- ② アタッチメントブッシュを左右に引っ張るようにして支柱から外します。



アタッチメントブッシュBを上にはずしてから取り外します。

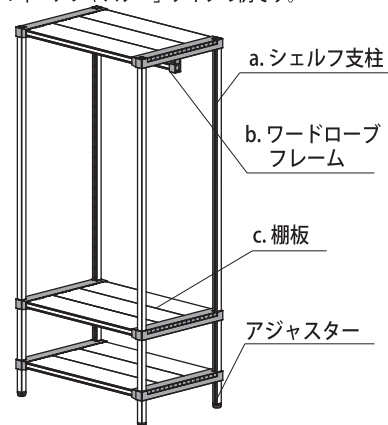


「ワードローブ」の組立方法

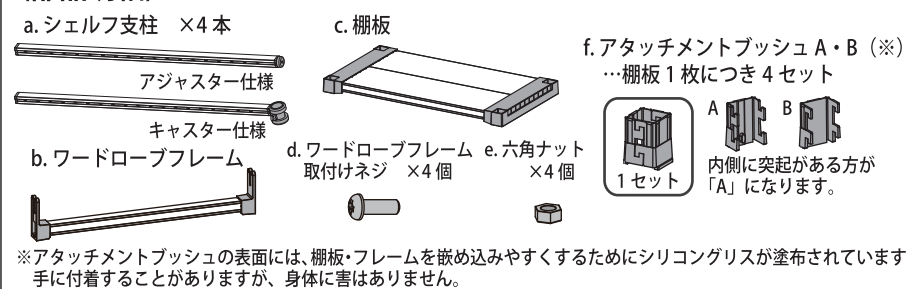
※必要な道具… プラスチックハンマー
もしくは ゴムハンマー プラスドライバー 保護手袋 (ケガ防止の為、手袋の着用をおすすめします。)

〈製品完成図 及び 部品名称〉

※下図は「奥行540・棚板3枚・ワードローブフレーム1本・アジャスター」タイプの例です。



〈部品明細〉 ※サイズ・棚板の枚数・フレームの本数はお客様のご注文内容によって異なります。

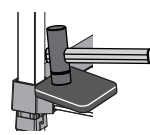


〈組立目安時間〉 40 ～ 60 分

(奥行540・棚板3枚・ワードローブフレーム1本のシェルフを大人1人で組み立てる場合)
※幅1mを超えるものは大人2人以上での組立をおすすめします。

「アルマット」について

製品のキズ防止及び打音軽減の目的で付属したクッションマットです。部材をハンマーで叩く際に、必要に応じてご活用ください。



〈組立手順〉

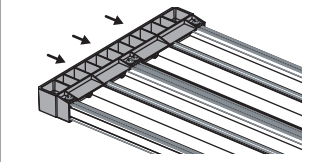
1 ワードローブフレームを取り付ける位置を決めます。

① 棚板を裏返し、ワードローブフレームを取り付ける位置を選びます。
※ 奥行360の場合は3段階、奥行540の場合は5段階から取付け位置を選べます。

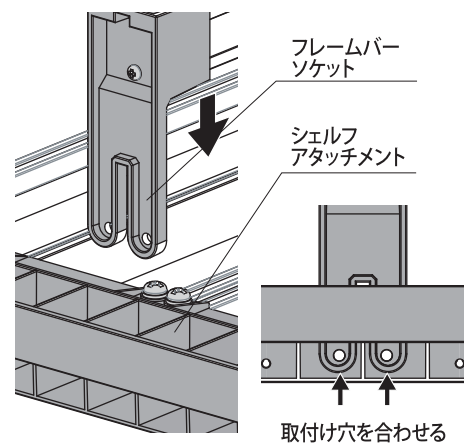
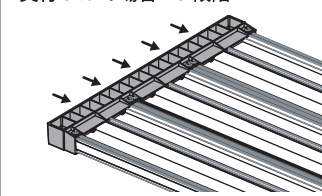
② ワードローブフレームの取り付ける位置を決め、右図の様に、シェルフアタッチメントにフレームパーソケットを差し込み、2ヶ所の取付け穴を合わせます。

【ワードローブフレーム取付け位置】

奥行360の場合…3段階



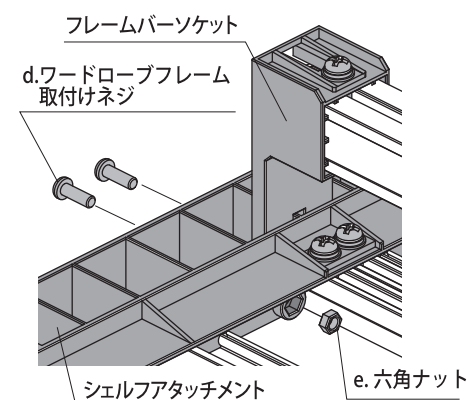
奥行540の場合…5段階



2 ワードローブフレームの片側をワードローブフレーム取付けネジで2ヶ所固定します。

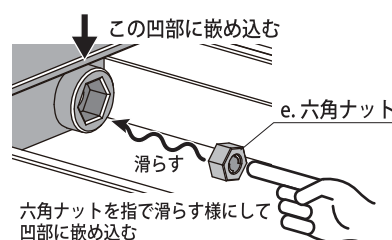
(1) 右図の様に、以下の手順で六角ナットをシェルフアタッチメントの凹部に嵌め込みます。

- ① 凹部の前に六角ナットを立てて置きます。(※方向注意)
- ② 六角ナットを指で凹部に向かって滑らす様に押します。
- ③ そのまま凹部の位置に調節しながら六角ナットを嵌め込みます。



Point

六角ナットは「戻り止め」が無い方を凹部に向けて嵌めてください。

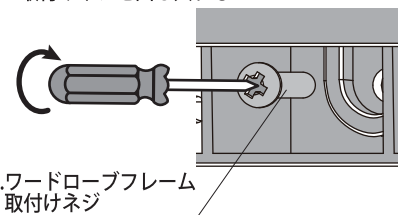


(2) 右図の様に、以下の手順でワードローブフレーム取付けネジを回し入れます。

- ① フレームパーソケットの取付け穴の位置を合わせます。
- ② 取付けネジを①で合わせた取付け穴に入れます。

- ③ (1)で嵌め込んだ六角ナットが外れない様に指で押えながら、プラスドライバーでネジを回し入れます。
- ④ ネジの先端が六角ナットより2mm程度出たら完了です。

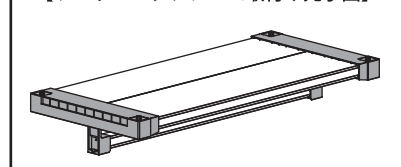
穴の位置を確認し、横からプラスドライバーで取付けネジを回し入れる



注意

ネジを固定するときは、プラスドライバーを強く回しすぎないでください。部材が破損する恐れがあります。

【ワードローブフレーム取付け完了図】



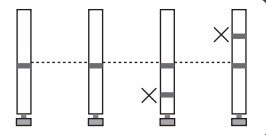
3 2の手順を同様に繰り返して、もう片側のフレームパーソケットも固定します。

4 棚板を取り付ける高さを決めます。

棚板を取り付けたい高さを決め、各シェルフ支柱にテープ等で目印をつけておきます。

Point

取付け位置はすべての支柱で同じ高さにそろえる

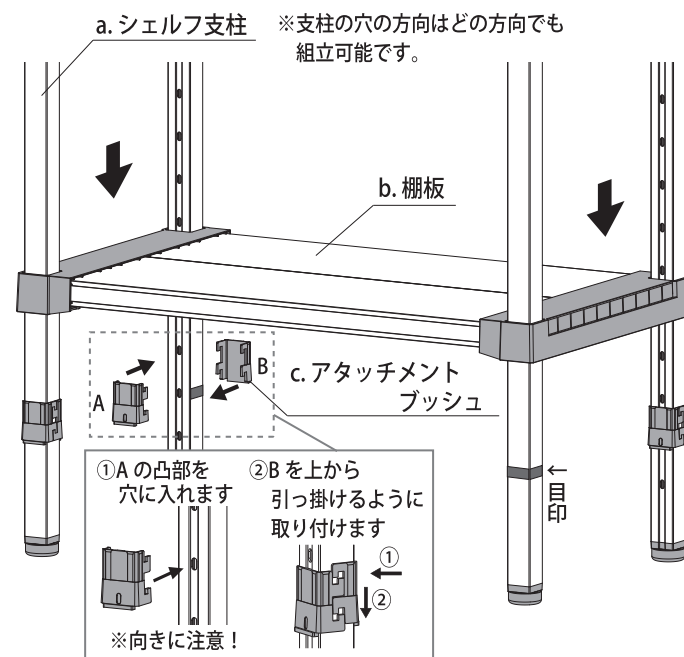


5 棚板を一番下の取付け位置から順に取り付けます。

① アタッチメントブッシュを④で決めた位置に、支柱を挟み込むようにして、4ヶ所取り付けます。

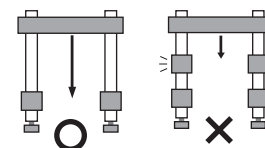
② 棚板をシェルフ支柱の上部から通します。

※幅1m以上の棚板は、ケガ防止の為2人以上で作業することをおすすめします。



Point

アタッチメントブッシュは一番下になる棚板の分だけ取り付ける



6 棚板の★で示した箇所をプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて棚板をアタッチメントブッシュに嵌め込みます。

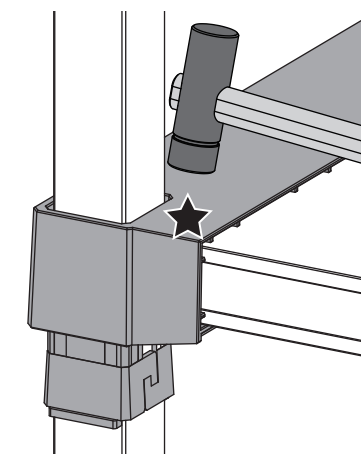
棚板の4角を最後まで嵌め込みます。4角の嵌り具合が均等になるよう、順番に少しずつ叩いてください。

※1ヶ所のみを集中して叩かないでください。棚板の破損の恐れがあります。

7 残りの棚板も⑤⑥と同様の手順で取り付けて完成です。

下の段の棚板から順番に、1枚ずつ取り付けてください。

※①②③で組み立てた、ワードローブフレームを取り付けた棚板も、お好みの位置に取り付けてください。



注意

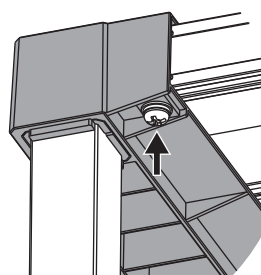
★で示した箇所以外は絶対に叩かないでください。部材が破損する恐れがあります。

〈棚板の取外し方〉

① 右図に示したネジ頭を、下からプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて棚板を取り外します。

※4ヶ所順番に均等に少しずつ叩いて、棚板を徐々に外していきます。1ヶ所のみを集中して叩かないでください。棚板の破損の恐れがあります。

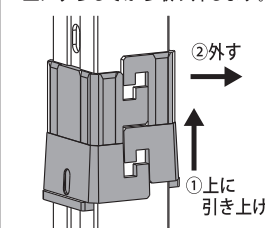
② アタッチメントブッシュを左右に引っ張るようにして支柱から外します。



注意

ネジ頭以外の箇所は絶対に叩かないでください。部材が破損する恐れがあります。

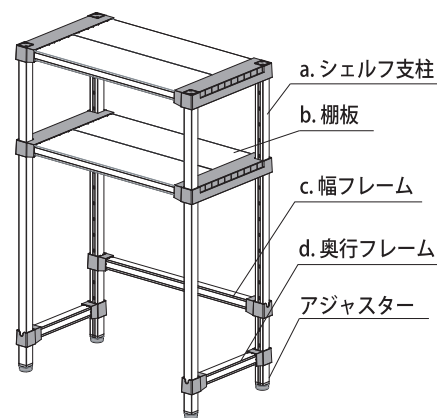
アタッチメントブッシュBを上にはずしてから取り外します。



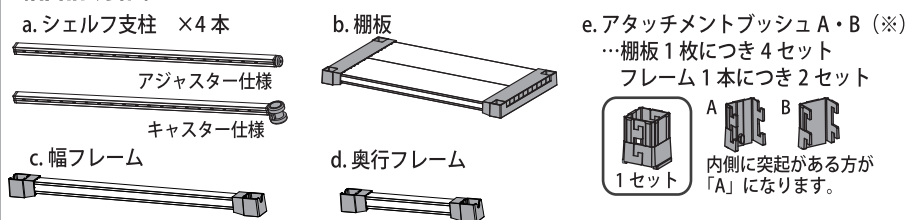
「フレームシェルフ」の組立方法

※必要な道具… プラスチックハンマー
もしくはゴムハンマー 保護手袋 (ケガ防止の為、手袋の着用を
おすすめします。)

〈製品完成図 及び 部品名称〉

※下図は「奥行360・棚板2枚・幅フレーム1本・
奥行フレーム2本・アジャスター」タイプの例です。

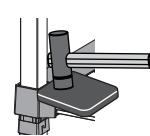
〈部品明細〉 ※製品のサイズ・棚板・フレームの数はお客様のご注文内容によって異なります。

※アタッチメントブッシュの表面には、棚板・フレームを嵌め込みやすくするためにシリコングリスが塗布されています。
手に付着することがありますが、身体に害はありません。

〈組立目安時間〉 40～60分

(奥行360・棚板2枚・幅フレーム1本・奥行フレーム2本のシェルフを大人1人で組み立てる場合)
※幅1mを超えるものは大人2人以上での組立をおすすめします。

「アルマット」について

製品のキズ防止及び打音軽減の目的で付属したクッションマットです。
部材をハンマーで叩く際に、必要に応じて活用ください。

〈組立手順〉 ※棚板・フレームは同様の手順で組み立てます。

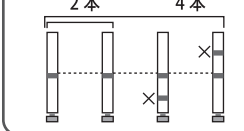
1 棚板やフレームを取り付ける高さを決めます。

各シェルフ支柱の棚板やフレームを取り付けたい高さを決め、テープ等で目印をつけておきます。

2 棚板もしくはフレームを一番下の取付け位置から順に取り付けます。

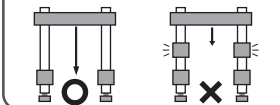
- ①アタッチメントブッシュを1で決めた位置に、支柱を挟み込むように取り付けます。
棚板の場合は4本、フレームの場合は2本の支柱に高さをそろえて取り付けてください。
- ②棚板もしくはフレームをシェルフ支柱の上部から通します。
※幅1m以上の棚板・フレームは、ケガ防止の為2人以上で作業することをおすすめします。

Point

取付け位置の高さをそろえる
フレームは 2本 棚板は 4本

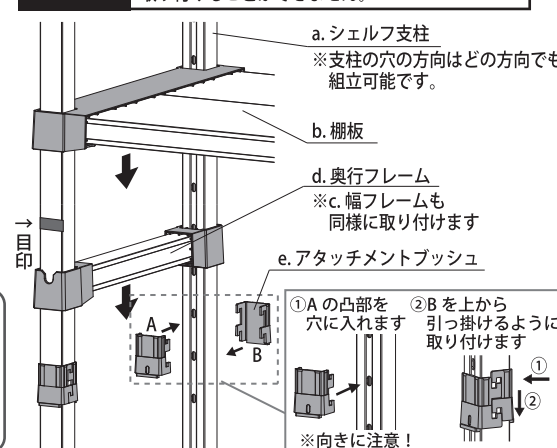
Point

アタッチメントブッシュは一番下の棚板・フレームの分だけ取り付ける



注意

幅フレームと奥行フレームは、同時に同じ高さに取り付けることができません。

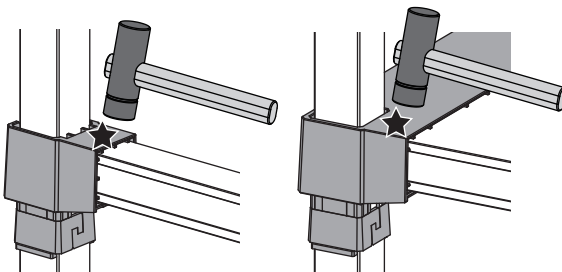


3 棚板・フレームの★で示した箇所をプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて棚板、及びフレームをアタッチメントブッシュに嵌め込みます。

棚板・フレームのすべての角を最後まで嵌め込みます。
すべての角の嵌り具合が均等になるよう、順番に少しずつ叩いてください。1ヶ所のみを集中して叩かないでください。
棚板・フレームの破損の恐れがあります。

4 残りの棚板・フレームも23と同様の手順で取り付けて完成です。

下の段の棚板・フレームから順番に、1つつ取り付けてください。



注意

★で示した箇所以外は絶対に叩かないでください。
部材が破損する恐れがあります。

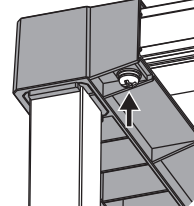
アタッチメントブッシュが完全に隠れ、棚板・フレームがストッパーで止まった状態で完了です

注意 ストッパーで棚板・フレームが止まったら、それ以上叩かないでください。
ストッパーが破損する恐れがあります。

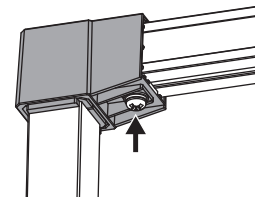
〈棚板・フレームの取外し方〉

- ①右図に示したネジ頭を、下からプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて、棚板・フレームを取り外します。
※全ての角を順番に均等に少しずつ叩いて、棚板・フレームを徐々に外していきます。
1ヶ所のみを集中して叩かないでください。
棚板・フレームの破損の恐れがあります。
- ②アタッチメントブッシュを左右に引っ張るようにして支柱から外します。

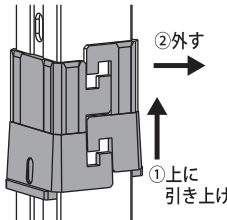
【棚板の場合】



【フレームの場合】

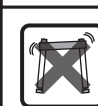


アタッチメントブッシュBを上にはずしてから取り外します。

注意 ネジ頭以外の箇所は絶対に叩かないでください。
部材が破損する恐れがあります。

各オリジナルパーツについて

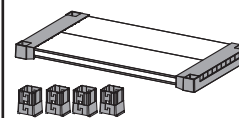
注意

追加でご購入いただいたパーツが、現在お使いの製品とサイズが合わない場合は、無理に取付けを行わないでください。(ご注文時に注意してください)
製品が破損し、予期せぬケガをまねく恐れがあります。お客様のオリジナルの製品を組み立てる際は、製品がぐらつかないように棚板・フレームの数や取付け位置のバランスにご注意ください。
製品が不安定なまま使用を続けると、製品が転倒・破損し、予期せぬケガをまねく恐れがあります。

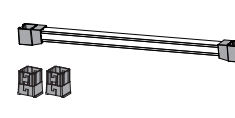
「フラットシェルフ」「フラットフレーム」の取付け方法

※必要な道具… プラスチックハンマー
もしくはゴムハンマー 保護手袋 (ケガ防止の為、手袋の着用を
おすすめします。)

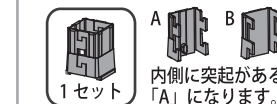
【フラットシェルフ (棚板)】



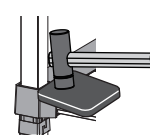
【フラットフレーム】



アタッチメントブッシュA・B(※)

※アタッチメントブッシュの表面には、棚板・フレームを嵌め込みやすくするためにシリコングリスが塗布されています。
手に付着することがありますが、身体に害はありません。

「アルマット」について

製品のキズ防止及び打音軽減の目的で付属したクッションマットです。
部材をハンマーで叩く際に、必要に応じて活用ください。

〈組立手順〉 ※棚板・フレームは同様の手順で組み立てます。

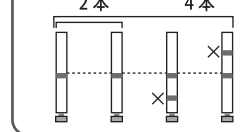
1 棚板やフレームを取り付ける高さを決めます。

各支柱の棚板やフレームを取り付けたい高さを決め、テープ等で目印をつけておきます。

2 棚板もしくはフレームを一番下の取付け位置から順に取り付けます。

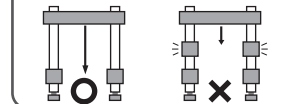
- ①アタッチメントブッシュを1で決めた位置に、支柱を挟み込むように取り付けます。
棚板の場合は4本、フレームの場合は2本の支柱に高さをそろえて取り付けてください。
- ②棚板もしくはフレームを支柱の上部から通します。
※幅1m以上の棚板・フレームは、ケガ防止の為2人以上で作業することをおすすめします。

Point

取付け位置の高さをそろえる
フレームは 2本 棚板は 4本

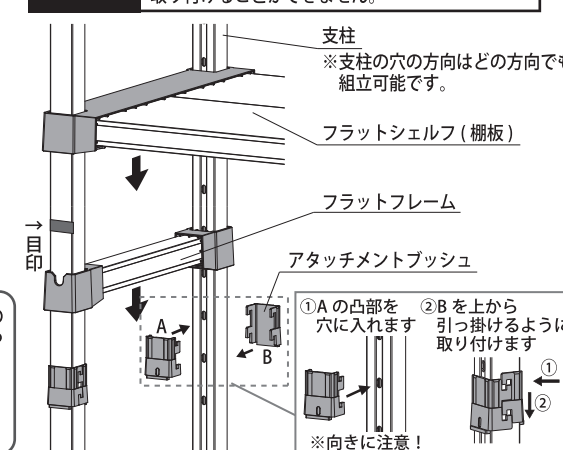
Point

アタッチメントブッシュは一番下の棚板・フレームの分だけ取り付ける



注意

幅フレームと奥行フレームは、同時に同じ高さに取り付けることができません。

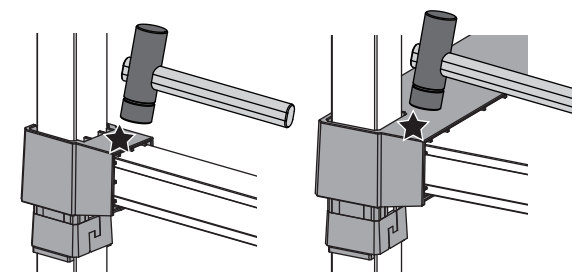


3 棚板・フレームの★で示した箇所をプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて棚板、及びフレームをアタッチメントブッシュに嵌め込みます。

棚板・フレームのすべての角を最後まで嵌め込みます。
すべての角の嵌り具合が均等になるよう、順番に少しずつ叩いてください。1ヶ所のみを集中して叩かないでください。
棚板・フレームの破損の恐れがあります。

4 残りの棚板・フレームも23と同様の手順で取り付けて完成です。

下の段の棚板・フレームから順番に、1つつ取り付けてください。



注意

★で示した箇所以外は絶対に叩かないでください。
部材が破損する恐れがあります。

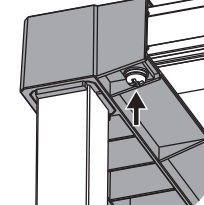
アタッチメントブッシュが完全に隠れ、棚板・フレームがストッパーで止まった状態で完了です

注意 ストッパーで棚板・フレームが止まったら、それ以上叩かないでください。
ストッパーが破損する恐れがあります。

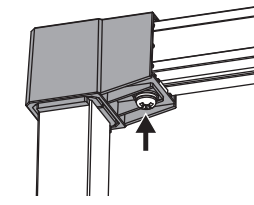
〈棚板・フレームの取外し方〉

- ①右図に示したネジ頭を、下からプラスチックハンマーもしくはゴムハンマーで叩いて、棚板・フレームを取り外します。
※全ての角を順番に均等に少しずつ叩いて、棚板・フレームを徐々に外していきます。
1ヶ所のみを集中して叩かないでください。
棚板・フレームの破損の恐れがあります。
- ②アタッチメントブッシュを左右に引っ張るようにして支柱から外します。

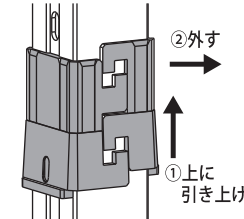
【棚板の場合】



【フレームの場合】

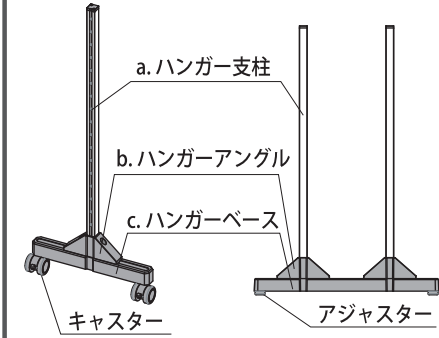


アタッチメントブッシュBを上にはずしてから取り外します。

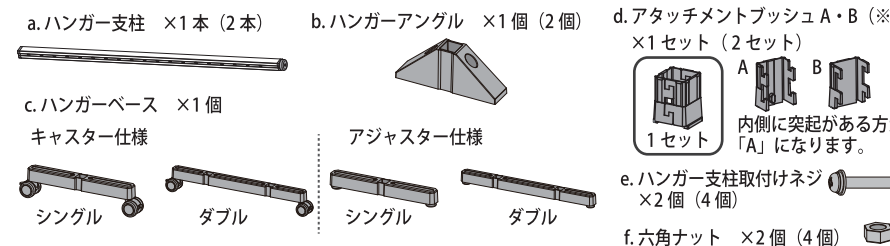
注意 ネジ頭以外の箇所は絶対に叩かないでください。
部材が破損する恐れがあります。

「ハンガー支柱（シングル・ダブル）」の組立方法 ※必要な道具… プラスドライバー 保護手袋（ケガ防止の為、手袋の着用をおすすめします。）

【ハンガー支柱組立完了図 及び 部品名称】
シングルハンガー支柱（キャスター仕様）
ダブルハンガー支柱（アジャスター仕様）



〈セット内容（1セットあたり）〉※支柱の高さはお客のご注文内容によって異なります。
（ ）内の個数はダブルハンガー支柱セットでの数量になります。



※アタッチメントブッシュの表面には、フレームを嵌め込みやすくするためにシリコングリスが塗布されています。手に付着することがありますが、身体に害はありません。

〈組立手順〉 シングルハンガー・ダブルハンガーともに、同様の手順で組み立てます

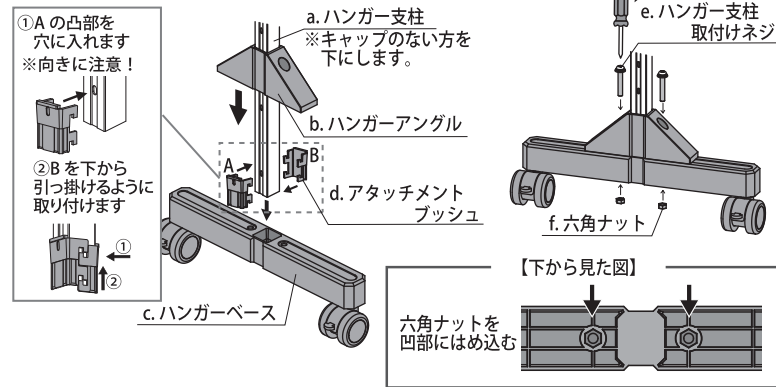
1 ハンガー支柱を組み立てます。

- ハンガー支柱の最下部にアタッチメントブッシュを取り付けます。
- ハンガー支柱の下部をハンガーベースに差し込みます。
- ハンガーアングルをハンガー支柱の上部から通します。

2 1をハンガー支柱取付けネジで2ヶ所固定します。

- ハンガーアングルの穴にハンガー支柱取付けネジを通します。
- ハンガーベース下部の凹部に六角ナットをはめ込みます。
- ハンガー支柱取付けネジをプラスドライバーで固定します。

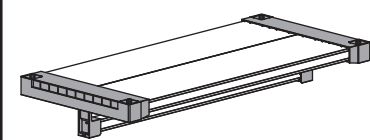
3 ダブルハンガー支柱の場合は、1 2と同様の手順で、もう1本の支柱を組み立てます。



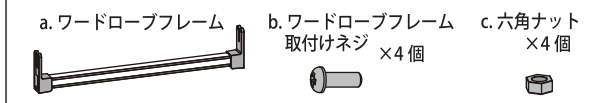
「ワードローブフレーム」の取付け方法

※必要な道具… プラスドライバー 保護手袋（ケガ防止の為、手袋の着用をおすすめします。）

―【ワードローブフレーム取付け完了図】―



〈セット内容（1セットあたり）〉※ワードローブフレームの長さはお客のご注文内容によって異なります。



▲ 注意
奥行 180 の棚板にワードローブフレームを取付けないでください。製品がバランスを崩して転倒し、予期せぬケガをまねく恐れがあります。

〈組立手順〉

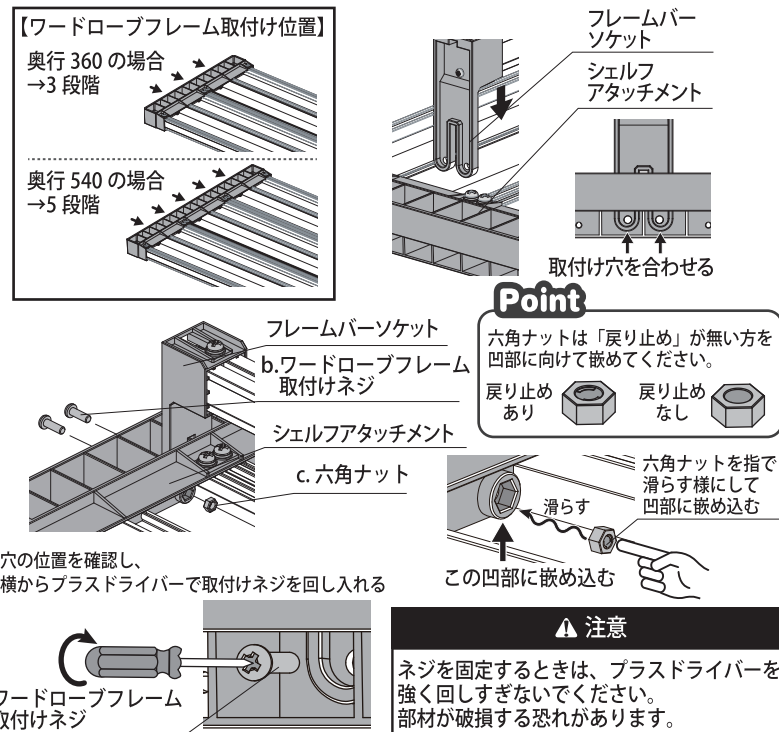
1 ワードローブフレームを取り付ける位置を決めます。

- 棚板を裏返し、ワードローブフレームを取り付ける位置を選びます。
※ 奥行 360 の場合は 3 段階、奥行 540 の場合は 5 段階から取付け位置を選べます。
- ワードローブフレームを取り付ける位置を決め、右図の様に、シェルフアタッチメントにフレームパーソケットを差し込み、2ヶ所の取付け穴を合わせます。

2 ワードローブフレームの片側をワードローブフレーム取付けネジで2ヶ所固定します。

- 右図の様に、以下の手順で六角ナットをシェルフアタッチメントの凹部に嵌め込みます。
 - 凹部の前に六角ナットを立てて置きます。（※方向注意）
 - 六角ナットを指で凹部に向かって滑らす様に押します。
 - そのまま凹部の位置に調節しながら六角ナットを嵌め込みます。
- 右図の様に、以下の手順でワードローブフレーム取付けネジを回し入れます。
 - フレームパーソケットの取付け穴の位置を合わせます。
 - 取付けネジを①で合わせた取付け穴に入れます。
 - ①で嵌め込んだ六角ナットが外れない様に指で押さえながら、プラスドライバーでネジを回し入れます。
 - ネジの先端が六角ナットより 2mm 程度出たら完了です。

3 2の手順を同様に繰り返して、もう片側のフレームパーソケットも固定します。



「転倒防止金具」の取付け方法

※必要な道具… プラスドライバー 8mm スパナ

「転倒防止金具」は商品の転倒を防止するための部品で、壁などに取付けて使用します。
付属のアンカーを使用すれば、石膏ボードにも取付けが可能です。ご使用の際は下記の注意事項をよく読んで、取付けを行ってください。

以下の材質の壁には取付けできません。
モルタル、コンクリート、漆喰、土壁、発泡プラスチック系の壁など
※この金具はスタンダードシェルフ・ワードローブ・フレームハンガー・フレームシェルフのみ対応している部品です。
シングルハンガー・ダブルハンガーには対応していません。

〈取付け手順〉

1 転倒防止金具を支柱に取り付けます。

- 金具を取り付けたい高さを決めます。
※ 取付け位置がより高いほど、製品を安定して固定することができます。
- 金具の穴の位置を支柱と壁の距離に合わせて調節し、そこに金具取付けネジを通します。
（金具の穴は壁との距離に応じて4段階に調節できます）
- 右記の「ネジ固定のポイント」を参考に、ネジの端を袋ナットで固定します。

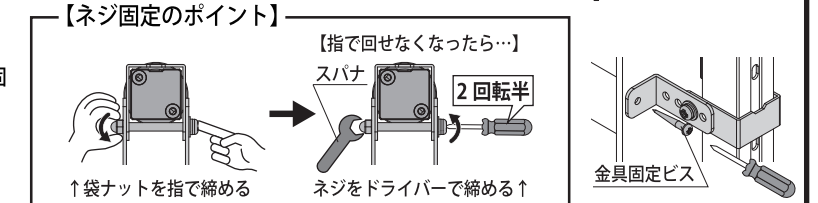
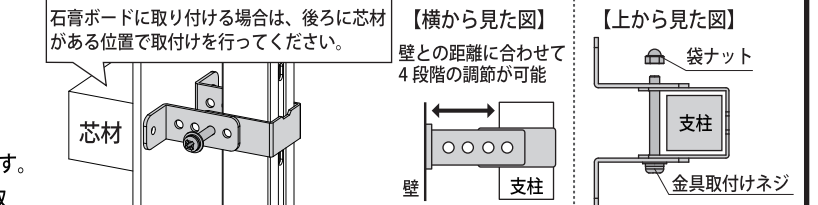
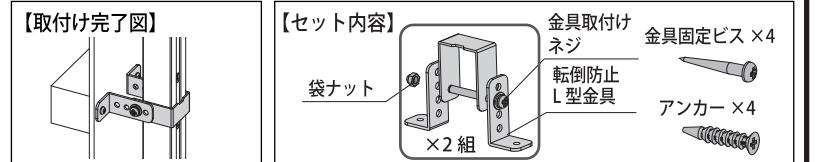
2 転倒防止金具を壁に固定します。

【木製の壁の場合】
金具固定ビスで、転倒防止金具を壁に固定して取付け完了です。
▲ 木製の壁にはアンカーを埋め込まないでください。
アンカーが破損する恐れがあります。

【石膏ボードの壁の場合】
1 先にアンカーを埋め込むことで、石膏ボードへの取付けが可能になります。
（※取付け位置に芯材があればアンカーの必要はありません）
右記の「アンカー埋め込み手順」に従って作業を行ってください。

- アンカーは一度壁などに埋め込むと、二度と取り外しができません。取り付ける前に金具の穴の位置に印をつけるなどして、取付け位置がずれないようにご注意ください。
- アンカーの位置に金具を合わせ、金具固定ビスで固定して取付け完了です。

注意 小さなお子様がいらっしゃる場所では取付け作業を行わないでください。ネジ等の小さな部品を誤飲する恐れがあります。



▲ 袋ナットが破損する恐れがありますので、ネジをきつく締めすぎないでください。

【アンカー埋め込み手順】※石膏ボードの後面に芯材がない場合のみ
1 先にアンカーを埋め込むことで、石膏ボードへの取付けが可能になります。
（※取付け位置に芯材があればアンカーの必要はありません）
右記の「アンカー埋め込み手順」に従って作業を行ってください。

- アンカーは一度壁などに埋め込むと、二度と取り外しができません。取り付ける前に金具の穴の位置に印をつけるなどして、取付け位置がずれないようにご注意ください。
- アンカーの位置に金具を合わせ、金具固定ビスで固定して取付け完了です。

「フレーム補強金具」の取付け方法

※必要な道具… プラスドライバー 8mm スパナ

「フレーム補強金具」はフレームが2本以上の場合、フレーム同士を右図のように連結することでフレームの耐荷重量を増加することができる補強部品です。

フレーム補強金具は右図の様に2本のフレームの間隔が 100mm（2本のフレームの間に取付け穴が1つだけある状態）の場合にのみ使用できます。

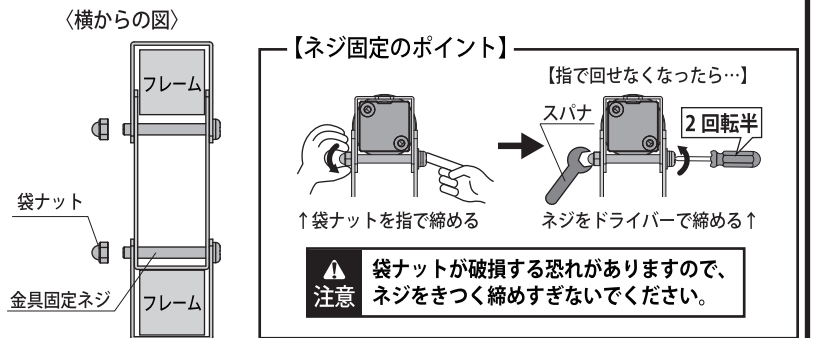
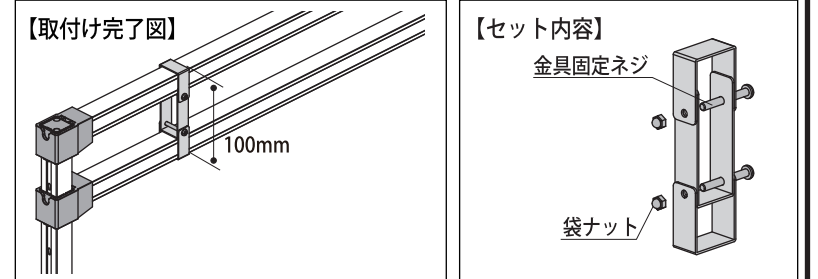
フレームが 1400mm を超えるような長いハンガーで多くの衣類を収納したい際などに活用できます。

※1400mm 以上の長さのフレームに多くの衣類をかけると「しなり」が発生することがありますが、耐荷重量内での使用であれば問題ありません。
※この金具はワードローブフレームには取付けすることができません。

〈取付け手順〉

- 2本のフレームに、フレーム補強金具を図の様に取付けます。
- フレーム補強金具の穴に金具固定ネジを通し、右記の「ネジ固定のポイント」を参考に袋ナットで固定します。

注意 小さなお子様がいらっしゃる場所では取付け作業を行わないでください。ネジ等の小さな部品を誤飲する恐れがあります。



〈フレーム補強金具使用時の耐荷重の増加量〉

フレームの長さ	200 ～ 999mm	1000 ～ 1399mm	1400 ～ 1800mm
金具使用時の耐荷重量の変化	約 80kg → 約 100kg	約 60kg → 約 80kg	約 50kg → 約 70kg

キャスターについて

本製品のキャスターはロック機能がついています。
ストッパーを下方に下げることで車輪がロックされ、上方に上げることで解除されます。
車輪をロックした状態でもキャスター自体は旋回します。

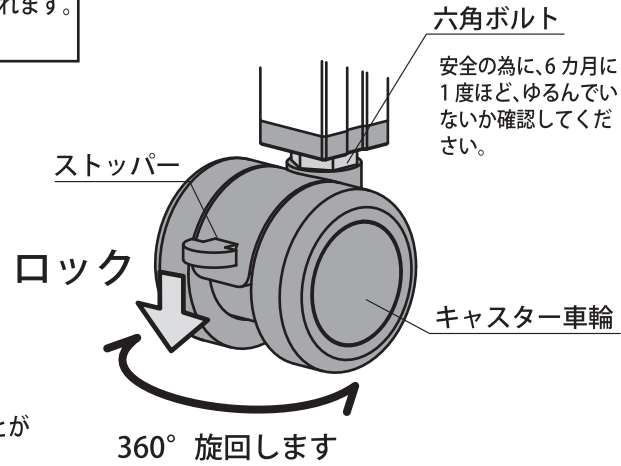
▲ 注意

- 製品の移動時以外は、必ずキャスターのストッパーをかけてください。
製品が転倒し、予期せぬケガをまねく恐れがあります。
- キャスターのストッパーをかけたまま製品を移動しないでください。
キャスターが破損したり、床面にキズがつく恐れがあります。
- 製品を長時間移動させなかった場合、フローリングに痕が付く場合がありますのであらかじめご了承ください。

◆キャスターの動きが悪い時は…

- ①すべてのキャスターにストッパーが掛かっていないことを確認してください。
- ②ゴミなどの異物がキャスターの車輪部分に挟まっていると動きが悪くなることがありますので、定期的にメンテナンスを行ってください。
- ③それでも改善されない場合はシリコンスプレーを車輪部に塗布してください。

⚠ 石油系の潤滑油を使用するとキャスターの急速な劣化を招く恐れがありますのでおやめください。



六角ボルト
安全の為に、6カ月に1度ほど、ゆるんでいないか確認してください。

アジャスターについて

本製品のアジャスターは0～20mm程度の範囲で高さ調節が可能です。
床面に多少の凹凸がある場合などガタツキをなくしたいときに調節してください。
アジャスターを図の様に回すことで調節ができます。

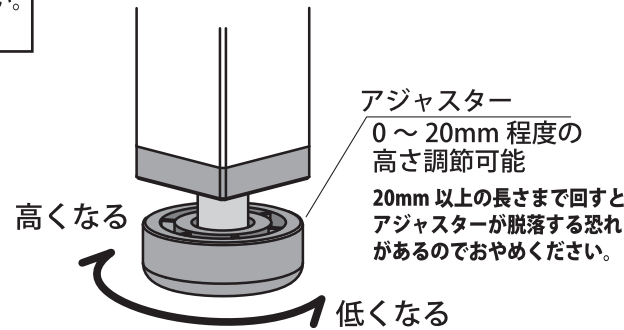
▲ 注意

アジャスターはエラストマー樹脂製ですのでフローリングを傷付けにくい素材ではありますが、製品を引きずって移動させると床に傷がつく恐れがあります。

◆アジャスターが回りにくい時は…

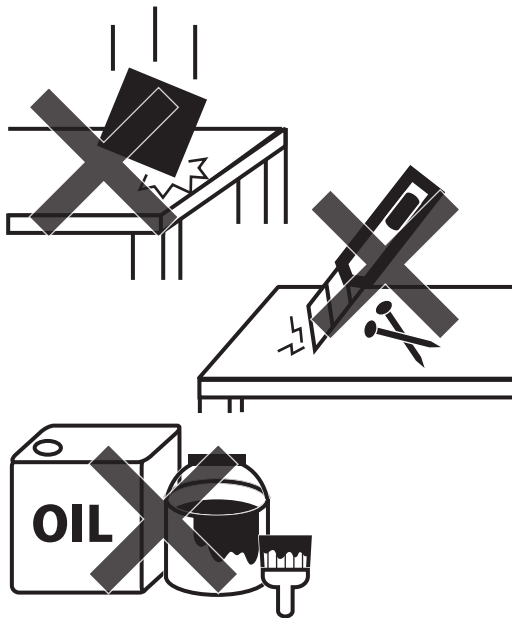
シリコンスプレーを塗布するなどして改善を図ってください。
無理に回そうとすると破損の原因になりますのでおやめください。

⚠ 石油系の潤滑油を使用するとアジャスターの急速な劣化を招く恐れがありますのでおやめください。



末永くお使いいただくために

- 製品に物を勢いよく置いたり、衝撃的荷重をかけないでください。
製品の破損や変形の原因となります。
- 製品を持ち運ぶ際は、投げたり乱暴に扱わないでください。
製品の破損や変形の原因となります。
- 釘やカッターなど鋭利な金属で製品にキズをつけたりしないでください。
キズついた部分よりサビが発生し、製品劣化の原因となる場合があります。
- アルミの表面処理は陽極酸化被膜加工（アルマイト加工）を行った上にクリア塗装を施しております。
表面の塗装面をキズ付けずにお使いいただくとう長持ちいたします。
- アルミ材の上に釘や画鋲（銅や真鍮）を長時間置かないでください。
サビが移り、製品の劣化の原因となります。
- 半年に一度を目安にネジ類の緩み等の点検を行っていただくと安心してお使いいただけます。
- 製品に石油系の油を塗布しないでください。製品の劣化の原因となります。
- 製品の塗装につきましては、原則としてお避けください。
水性塗料の場合は色が剥げることがあります。
また油性の塗料は樹脂部材の劣化や割れの原因になる恐れがありますのでお止めください。
- 殺虫剤などを吹きかけないでください。変色・変質の原因になる恐れがあります。



耐荷重量について

- 製品の耐荷重量はそれぞれ下記のとおりです。それを超える負荷は絶対にかけないでください。
製品の破損や変形による収納物の落下などによるケガの恐れがあります。
- 耐荷重量内であっても、製品の上に乗る、座るなどの目的での使用（椅子・ベッドとしての使用）をしないでください。
製品の破損や予期せぬケガをまねく恐れがあります。

■シェルフ

- シェルフにおける製品全体での耐荷重量は約200kgです。棚板1枚あたりの耐荷重量は棚板の奥行寸法や製品幅の長さに応じて変わります。（下表をご参照ください）
- 棚板に重いものを載せるとたわみが出ることがありますが、アルミの特性として荷重を減らすと元に戻りますので、耐荷重量内での使用であれば問題はありません。ですが、たわみによって影響を受ける積載物（水槽等）に関しては、載せることをおさげください。

棚板1段あたりの耐荷重量	製品幅（200～999mm）	製品幅（1000～1399mm）	製品幅（1400～1800mm）
棚板奥行（D180タイプ）	約100kg	約70kg	約60kg
棚板奥行（D360タイプ）	約100kg	約80kg	約70kg
棚板奥行（D540タイプ）	約100kg	約80kg	約70kg

■ハンガー

- ハンガーにおける製品全体での耐荷重量は約100kgです。フレーム1本あたりの耐荷重量は製品幅の長さに応じて変わります。（下表をご参照ください）
- 幅の長いフレームに多くの衣類を収納すると、たわみが発生することがありますが、耐荷重量内であれば製品上問題はありません。
- 「フレーム補強金具」を取付けることでフレーム1本あたりの耐荷重量が変わります。（下表をご参照ください）

	製品幅（200～999mm）	製品幅（1000～1399mm）	製品幅（1400～1800mm）
フレーム1本あたりの耐荷重量	約80kg	約60kg	約50kg
フレーム補強金具使用	約100kg	約80kg	約70kg

■ワードローブ

- ワードローブにおける製品全体での耐荷重量は約200kgです。ワードローブフレーム1本あたりの耐荷重量は製品幅の長さに応じて変わります。（下表をご参照ください）
- 幅の長いワードローブフレームに多くの衣類を収納すると、たわみが発生することがありますが、耐荷重量内であれば製品上問題はありません。

	製品幅（200～999mm）	製品幅（1000～1399mm）	製品幅（1400～1800mm）
フレーム1本あたりの耐荷重量	約80kg	約60kg	約50kg

お手入れについて

⚠ お手入れの際のご注意 ⚠

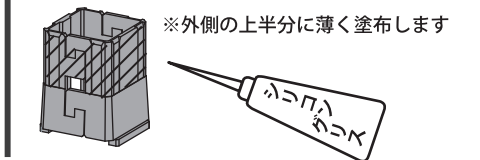
- ベンジン、シンナー等で拭かないでください。
製品の変形、変色の原因となります。
- 金属製たわしや磨き粉のご使用はご遠慮ください。
アルミの表皮が削れ、部材の劣化を招きます。
- 本製品はアルマイト加工を施してあるため、サビ防止剤は必要ありません。



■アタッチメントブッシュのお手入れ

支柱に棚板やフレームが嵌りにくくなった場合は、シリコングリスの塗布を推奨します。

⚠シリコングリス以外の潤滑油を塗布すると樹脂パーツの急速な劣化を招く恐れがありますのでおやめください。



■汚れた場合のお手入れ手順

- ①台所用中性洗剤を薄めた液に浸した布で汚れを拭き取ります。
- ②固く絞った布で水拭きします。
- ③乾いた布で水分を残さないように拭き取ります。

保管について



直射日光が直接当たる場所や高温多湿な場所はさけてください。
製品の変色や急速な劣化の原因となります。



異種金属（銅、銅等）に接触させた状態での保管はさけてください。
サビの発生の原因となる場合があります。



アタッチメントブッシュや取付けネジなど細かいパーツは、お子様の手の届かない場所で保管してください。
誤飲の原因となります。

トラブルと対処 及び よくあるご質問

■不具合品について（配達された時点で破損していた、パーツが足りなかった…等）

まずは破損などの状況をお問い合わせいただき、届いた梱包の状態で送料着払いにて弊社まで送付お願いいたします。状態を確認し、対応させていただきます。

■製品の破損について

状況に応じて対応を検討いたしますので、まずはお問い合わせください。

取扱説明書に記載されている手順以外の方法で不具合が発生した場合（誤った場所を叩いてパーツを破損させた…等）については対応しかねますのでご了承ください。

※原則として部品単位の個別販売、製品の修理対応は行っておりません。

■部品の紛失について（ネジをなくしてしまった…等）

状況に応じて対応を検討いたしますので、まずはお問い合わせください。

■製品を返品したい

本製品はお客様お一人おひとりに合わせたオーダーメイド製品のため、お客様のご都合による返品・交換に関しては原則としてお受けできませんのでご了承ください。

■製品を再加工してほしい（部屋の模様替えに合わせて…等）

製品の再加工のサービスは行っておりません。

ご相談には対応させていただきますのでお問合せください。

■製品を廃棄したい

環境に配慮し全ての部材が取付けネジを取り外す事で分解が可能となっております。

アルミ部材、樹脂部材などに分解した後に各自治体のルールに従い破棄を行ってください。

※樹脂をご自宅で焼却処分しないでください。周囲の迷惑となる恐れがあります。

※本製品はお客様により様々な活用状況が想定されるため保証期間は設けておりません。

品質表示

■使用材料

ベース支柱:アルミニウム合金(アルマイト処理/アクリル樹脂塗装)
フラットプレート:アルミニウム合金(アルマイト処理/アクリル樹脂塗装)
フラットフレーム:アルミニウム合金(アルマイト処理/アクリル樹脂塗装)
連結樹脂パーツ:ポリカーボネート樹脂(耐熱温度100℃)
アタッチメントブッシュ:ポリプロピレン(耐熱温度100℃)
キャスター:ナイロン樹脂(耐熱温度100℃)
アジャスター:エラストマー樹脂(耐熱温度100℃)

株式会社 シンドー

〒959-1288 新潟県燕市燕5525-1

<日本製>

お問合せ先

この度は、Mr.Alumanをお買い上げいただき誠にありがとうございます。製品についての不都合な点がございましたら下記までお問合せください。

製造販売元



株式会社 シンドー

HP-URL <http://www.shindo1947.com>

フリーダイヤル 0120-995-277

お問合せ時間/平日10:00~17:00(12:00~13:00を除く)

【20200120/1】

ロットNo.【

】